

特別企画： 京都府内企業のメインバンク実態調査（2016年）

## 7年連続で京都銀行が首位 ～京都市内では京都中央信金が首位～

### はじめに

今年4月、東京TYフィナンシャルグループ（東京都民銀行・八千代銀行）が新銀行東京をグループに迎え、将来的な合併に向けた新体制を発足させた。一方、地方では2月、長崎県に基盤を持つ十八銀行とふくおかフィナンシャルグループ（福岡銀行・熊本銀行・親和銀行）が2017年4月をメドとする経営統合を発表、昨年10月に誕生した九州フィナンシャルグループ（肥後銀行・鹿児島銀行）に続き、九州エリアでの地銀再編も加速している。今後、他の地域でも進むとみられる再編の動きは、各金融機関と地元中小企業との関係性に変化を生じさせる可能性もあり、なかでもメインバンクの果たす役割にこれまで以上に注目が集まっている。

帝国データバンク京都支店では、2016年10月末時点の企業概要ファイル「COSMOS2」に収録されている企業（146万社、特殊法人・個人事業主含む）から、京都府の企業（2万9,427社）がメインバンクと認識している金融機関について抽出し、集計した。

なお、調査対象は全業種全法人で、個人経営も含む。同調査は2016年1月に続き7回目。

※ 本調査は「COSMOS2」に収録されている企業のデータであるため、各金融機関がメインとして取引している実数とは異なる。また、一企業に複数のメインがあるケースでは、企業が最上位として認識している金融機関を集計した

### 調査結果（要旨）

1. 府内トップは7年連続「京都銀行」で、シェア32.3%（前回32.2%）を占める。ついで「京都中央信金」「京都信金」が続き、全体の7割を占めた
2. 地域別では、京都市内は「京都中央信金」がトップ、中丹、丹後など府北部は「京都北都信金」がトップで、約6割を占めた
3. 業種別では、7業種すべてで上位3位を「京都銀行」「京都中央信金」「京都信金」が占めた。6業種が「京都銀行」、「不動産」においては「京都中央信金」がトップとなった

## 1. 府内ランキング トップは7年連続で京都銀行

企業がメインバンクとして認識している金融機関の京都府内トップは、府内唯一の地銀で「飾らない銀行」を企業キャッチフレーズに積極的な新規出店を続ける「京都銀行」。同行をメインバンクとする企業数は9,498社（前回9,416社）となり、全体（2万9,427社）の32.3%（前回32.2%）を占め、7年連続でトップ。2位は信用金庫として預金量・貸金量とも全国でトップクラスにランクされる「京都中央信金」の7,370社（同7,334社）で、構成比25.0%（同25.1%）となった。府内の企業4社に1社が同信金をメインとしている。3位には「京都信金」の3,936社（同3,893社）で、構成比13.4%（同13.3%）。規模的には京都銀行、京都中央信金について第3位ながら、歴史は2行庫よりも古く、総資産は近畿地区の信用金庫としては3位の規模を誇る。前年とトップ3に変動はなく、上位3金融機関で7割を占めている。

4位は「京都北都信金」の2,078社（同2,073社）、構成比7.1%（同7.1%）。府北部と、亀岡市など中部をカバーし、確固たる基盤を有している。5位「三菱東京UFJ銀行」、6位「三井住友銀行」、7位「滋賀銀行」、8位「みずほ銀行」、9位「南都銀行」、10位は「りそな銀行」となった。前回とトップ10の顔ぶれおよび順位に変動はなかった。

ちなみに、全国のトップは「三菱東京UFJ銀行」、2位は「三井住友銀行」、3位は「みずほ銀行」、4位に「りそな銀行」と大手銀行が上位を占めており、こちらも前回と順位に変更はない。

メインバンク社数上位20

順位	金融機関名	所在地	社数	構成比(%)
1(1)	京都	京都市下京区	9,498	32.3
2(2)	京都中央信金	京都市下京区	7,370	25.0
3(3)	京都信金	京都市下京区	3,936	13.4
4(4)	京都北都信金	宮津市	2,078	7.1
5(5)	三菱東京UFJ	東京都	1,494	5.1
6(6)	三井住友	東京都	891	3.0
7(7)	滋賀	大津市	768	2.6
8(8)	みずほ	東京都	740	2.5
9(9)	南都	奈良市	614	2.1
10(10)	りそな	東京都	419	1.4
11(11)	関西アーバン	大阪府	304	1.0
12(12)	ゆうちょ	東京都	101	0.3
13(13)	商工中金	東京都	65	0.2
14(14)	京都農協	亀岡市	57	0.2
15(17)	京滋信組	京都市右京区	54	0.2
16(15)	但馬	豊岡市	52	0.2
17(18)	近畿産業信組	大阪府	48	0.2
18(15)	福邦	福井市	47	0.2
19(19)	中兵庫信金	兵庫県	45	0.2
20(20)	北陸	富山市	34	0.1

※()内は前年順位

※網掛けは順位変動あり

## 2. 地域別ランキング

地域別では京都府を京都市、山城、乙訓、南丹、中丹、丹後の6つの地域に分けた。

### 【京都市】

京都市に本社を置く企業のメインバンクを見てみると、1位は「京都中央信金」の5,619社(前回5,596社)、構成比29.8%(同29.8%)で、地域別では7年連続のトップ。2位の「京都銀行」は5,530社(同5,472社)、構成比29.3%(同29.1%)で、社数・シェアを伸ばした。2行庫の差は89社(同124社)、0.5ポイント(同0.7ポイント)と縮まる結果となった。

3位は「京都信金」2,930社(同2,890社)、構成比15.5%(同15.4%)。1位から10位まで、前年と顔ぶれおよび順位に変動はなかったが、トップ10のうち、「三井住友銀行」、「みずほ銀行」、「りそな銀行」、「ゆうちょ銀行」が前年と比較し、社数が減少した。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都中央信金	5,619	29.8
2(2)	京都	5,530	29.3
3(3)	京都信金	2,930	15.5
4(4)	三菱東京UFJ	1,288	6.8
5(5)	三井住友	751	4.0
6(6)	滋賀	709	3.8
7(7)	みずほ	649	3.4
8(8)	りそな	361	1.9
9(9)	関西アーバン	253	1.3
10(10)	ゆうちょ	74	0.4

※()内は前回順位

### 【山城】

府南部の山城地域では、1位は「京都銀行」の1,747社(前回1,716社)、構成比36.5%(同32.1%)で、前回と比較し、社数、シェアともに伸ばした。

2位は「京都中央信金」で、1,354社(同1,347社)、構成比28.3%(同25.2%)で、社数、シェアともに伸ばした。2行庫の差は393社(同369社)、構成比8.2ポイント(同6.9ポイント)と差が広がる形となった。

トップ10の顔ぶれ、順位に変動はなく、前回と比較し、1位から10位まで、それぞれの行庫がシェアを伸ばした。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	1,747	36.5
2(2)	京都中央信金	1,354	28.3
3(3)	南都	587	12.3
4(4)	京都信金	474	9.9
5(5)	三菱東京UFJ	139	2.9
6(6)	三井住友	104	2.2
7(7)	みずほ	56	1.2
8(8)	滋賀	46	1.0
9(9)	関西アーバン	42	0.9
10(10)	りそな	31	0.6

※()内は前回順位

### 【乙訓】

乙訓地区では、前回とトップ5の顔ぶれおよび順位に変動はなく、1位は「京都銀行」で、346社(前回342社)、構成比35.2%(同35.6%)。2位は「京都中央信金」で、294社(同285社)、構成比29.9%(同29.7%)で、前回より社数・シェアともに伸ばした。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	346	35.2
2(2)	京都中央信金	294	29.9
3(3)	京都信金	174	17.7
4(4)	三菱東京UFJ	44	4.5
5(5)	みずほ	22	2.2

※()内は前回順位

## 【南丹】

南丹地区では、1位が「京都銀行」で789社（前回791社）、構成比55.2%（同55.3%）。ついで「京都信金」が356社（同356社）、構成比24.9%（同24.9%）。トップ5の顔ぶれ、順位に変動はないが、この地区では4位の「京都北都信金」が73社（同72社）、構成比5.1%（同5.0%）と社数・シェアを伸ばした。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	789	55.2
2(2)	京都信金	356	24.9
3(3)	京都中央信金	103	7.2
4(4)	京都北都信金	73	5.1
5(5)	京都農協	34	2.4

※()内は前回順位

## 【中丹】

中丹地区では、合併前の信金が舞鶴、福知山などに本店を置いていた「京都北都信金」が1,281社（前回1,286社）、構成比58.1%（同58.3%）で1位。約6割と高いシェアを占めている。

ついで「京都銀行」が703社（同706社）、構成比31.9%（同32.0%）。さらに「中兵庫信金」「福邦銀行」

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都北都信金	1,281	58.1
2(2)	京都	703	31.9
3(4)	中兵庫信金	44	2.0
4(3)	福邦	40	1.8
5(5)	但馬	31	1.4

※()内は前回順位

※網掛けは順位変動あり

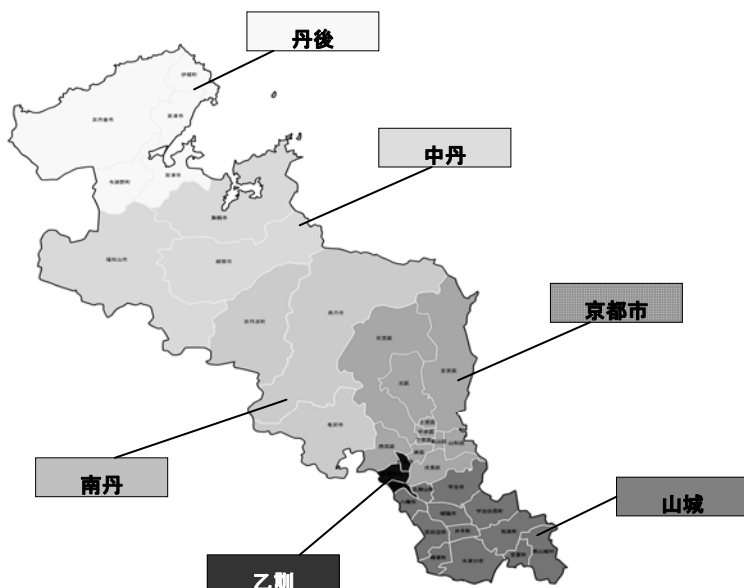
「但馬銀行」と、隣接する近隣県に本店を持つ金融機関の進出が見て取れる。上位2位までの順位に変動はないが、3位には前回4位の「中兵庫信金」が入り、前回3位の「福邦銀行」と順位を入れ替えた。

## 【丹後】

京都府最北端の丹後地区では、当地に本店を置く「京都北都信金」が722社（前回714社）、構成比62.9%（同62.6%）となった。ついで「京都銀行」が383社（同389社）、構成比33.4%（同34.1%）。この2金融機関で実に96.3%（同96.7%）を占めている。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都北都信金	722	62.9
2(2)	京都	383	33.4
3(3)	京都農協	17	1.5

※()内は前回順位



※「山城」は宇治市以南、「乙訓」は向日市、長岡京市、乙訓郡、「南丹」は亀岡市、南丹市、船井郡、「中丹」は福知山市、舞鶴市、綾部市、「丹後」は京丹後市、宮津市、与謝郡で分類した。

### 3. 業種別ランキング

#### 【建設業】

建設業のメインバンクを見てみると、1位は「京都銀行」で社数 2,855 社（前回 2,812 社）、構成比 31.8%（同 31.6%）となり、社数・シェアともに伸ばした。2位の「京都中央信金」も社数 2,837 社（前回 2,802 社）、構成比 31.6%（同 31.5%）となり、社数・シェアともに伸ばし、2行庫の差は 18 社（同 10 社）、構成比 0.2 ポイント（同 0.1 ポイント）と近接している。

トップ 10 の顔ぶれに変動はないが、6 位には前回 7 位の「三菱東京UFJ銀行」が入り、前回 6 位の「滋賀銀行」と順位を入れ替えた。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	2,855	31.8
2(2)	京都中央信金	2,837	31.6
3(3)	京都信金	1,126	12.6
4(4)	京都北都信金	927	10.3
5(5)	南都	269	3.0
6(7)	三菱東京UFJ	177	2.0
7(6)	滋賀	176	2.0
8(8)	関西アーバン	110	1.2
9(9)	三井住友銀行	101	1.1
10(10)	みずほ	80	0.9

※( )内は前回順位

※網掛けは順位変動あり

#### 【製造業】

製造業では、1位は「京都銀行」で社数 1,425 社（前回 1,428 社）、構成比 35.6%（同 35.5%）となり、社数は減少したが、シェアを伸ばし、首位を堅持。2位以下では、2位の「京都中央信金」が社数 799 社（前回 808 社）、構成比 20.0%（同 20.1%）と社数・シェアを下げた一方で、3位の「京都信金」が社数 694 社（前回 691 社）、構成比 17.3%（同 17.2%）と社数・シェアを伸ばした。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	1,425	35.6
2(2)	京都中央信金	799	20.0
3(3)	京都信金	694	17.3
4(4)	三菱東京UFJ	276	6.9
5(5)	京都北都信金	159	4.0
6(6)	みずほ	150	3.7
6(7)	三井住友	150	3.7
8(8)	滋賀	126	3.1
9(9)	りそな	69	1.7
10(10)	南都	62	1.5

※( )内は前回順位

#### 【卸売業】

卸売業でも、上位 3 行庫の顔ぶれ・順位に変動はない。1位は「京都銀行」で社数 1,312 社（前回 1,322 社）、構成比 32.7%（同 32.7%）となり、シェアは維持したものの、社数は減少した。上位 3 行庫のうち、3位の「京都信金」が社数 547 社（前回 539 社）、構成比 13.6%（同 13.3%）と社数・シェアともに伸ばした。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	1,312	32.7
2(2)	京都中央信金	863	21.5
3(3)	京都信金	547	13.6
4(4)	三菱東京UFJ	341	8.5
5(5)	みずほ	191	4.8
6(6)	三井住友	172	4.3
7(7)	滋賀	165	4.1
8(8)	京都北都信金	155	3.9
9(9)	りそな	100	2.5
10(10)	南都	61	1.5

※( )内は前回順位

## 【小売業】

小売業でも、上位3行庫の顔ぶれに変動はない。1位の「京都銀行」は社数1,026社（前回1,030社）、構成比30.7%（同30.8%）と、社数、シェアともに減少したが、首位を堅持した。2位の「京都中央信金」と3位の「京都信金」も社数が減少し、上位3行庫のすべての社数が減少する結果となった。その一方で、6位の「三井住友銀行」、7位の「みずほ銀行」、8位の「滋賀銀行」、9位の「南都銀行」が社数を伸ばした。

トップ10の顔ぶれに変動はないが、8位には前回9位の「滋賀銀行」が入り、前回8位の「南都銀行」と順位を入れ替えた。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	1,026	30.7
2(2)	京都中央信金	772	23.1
3(3)	京都信金	557	16.7
4(4)	京都北都信金	345	10.3
5(5)	三菱東京UFJ	149	4.5
6(6)	三井住友	101	3.0
7(7)	みずほ	87	2.6
8(9)	滋賀	70	2.1
9(8)	南都	68	2.0
10(10)	りそな	47	1.4

※()内は前回順位

※網掛けは順位変動あり

## 【不動産業】

不動産業では、7業種のうち唯一「京都中央信金」が社数739社（前回717社）、構成比33.7%（同33.5%）と1位となった。社数、シェアともに伸ばしており、2位の「京都銀行」との差は社数185社（前回177社）、構成比8.4ポイント（同8.3ポイント）と前回よりも広がる形となった。

前回同様8位の「関西アーバン銀行」は、建設に続きランクインしている。社数、シェアともに伸ばしており、建設・不動産関連での進出がうかがえる。

トップ10の顔ぶれに変動はないが、6位には前回7位の「滋賀銀行」が入り、前回6位の「京都北都信金」と順位を入れ替えた。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都中央信金	739	33.7
2(2)	京都	554	25.3
3(3)	京都信金	221	10.1
4(4)	三菱東京UFJ	120	5.5
5(5)	三井住友	87	4.0
6(7)	滋賀	69	3.2
7(6)	京都北都信金	67	3.1
8(8)	関西アーバン	64	2.9
9(9)	みずほ	59	2.7
10(10)	りそな	46	2.1

※()内は前回順位

※網掛けは順位変動あり

## 【運輸・通信業】

運輸・通信業では、1位は「京都銀行」で、社数240社（前回232社）、構成比33.4%（同33.0%）。社数・シェアともに増加。2位の「京都中央信金」との差は社数67社（前回61社）、構成比9.3ポイント（同8.7ポイント）と広がっている。

上位3行庫では、3位の「京都信金」も「京都銀行」、「京都中央信金」と同様に社数を伸ばした。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	240	33.4
2(2)	京都中央信金	173	24.1
3(3)	京都信金	107	14.9
4(4)	京都北都信金	44	6.1
5(5)	三菱東京UFJ	40	5.6
6(6)	三井住友	25	3.5
7(7)	みずほ	19	2.6
8(8)	滋賀	17	2.4
9(9)	商工中金	15	2.1
10(10)	南都	13	1.8

※()内は前回順位

## 【サービス業】

サービス業においても、1位は「京都銀行」で、社数2,021社（前回1,990社）、構成比34.0%（同33.9%）と、社数、シェアともに伸ばした。

トップ10の顔ぶれに変動はないが、4位には前回5位の「三菱東京UFJ銀行」が入り、前回4位の「京都北都信金」と順位を入れ替えた。

順位	金融機関名	社数	構成比(%)
1(1)	京都	2,021	34.0
2(2)	京都中央信金	1,155	19.4
3(3)	京都信金	668	11.2
4(5)	三菱東京UFJ	372	6.3
5(4)	京都北都信金	360	6.1
6(6)	三井住友	246	4.1
7(7)	みずほ	150	2.5
8(8)	滋賀	142	2.4
9(9)	南都	112	1.9
10(10)	りそな	80	1.3

※( )内は前回順位

※網掛けは順位変動あり

## 4.まとめ

2009年から開始した当調査では、都市部における都市銀行のシェア低下と、地方銀行のシェア上昇が数字で表れている。今年もその傾向に変わりはなく、全体の約4割の企業が地銀をメインバンクと認識している現状が明らかになった。

ただ、地銀によっては、将来の人口・預金減少、収益力の低下など多くの課題を抱えており、金融機関を取り巻く環境は、縮小するパイを奪い合う、先の見えない状態が続いている。こうしたなか、近年でも地域連合とも呼べる金融再編が相次いでいる。今年2月に発表された十八銀行のふくおかフィナンシャルグループ入り、同じ長崎県に本店を構える親和銀行との合併も将来の生き残りに向けた策と言えよう。

しかし、京都府においては、「京都銀行」が7年連続でトップとなり前回からシェアを拡大した。ついで、「京都中央信金」「京都信金」となるが、3行庫で全体の7割を占め、メガバンクですらシェア1割を下回るなど他の追随を許さない強固な営業基盤を築いている。中丹地区以北では、京都北都信金が中丹地区でシェア58.1%、丹後地区で62.9%と高いシェアを占めたものの、地域、業種を問わず、上位を3行庫で占める構図に変動はなかった。一方で上位3行庫以外においては、顔ぶれこそ変動はないものの、順位やシェアの増減は各々で見受けられ、競争激化の様相がうかがえる。

信頼関係が何よりも重視される京都府の風土から短期的に見て、昨今の低金利による貸し出し競争の結果、メインバンクに入れ替わりがあるなど上位3行庫を脅かす大きな変動は考えにくい。将来的な人口減少という問題は京都府においても例外ではなく、将来を見据えた再編の可能性も否定できない。

また、金融機関は、10月に公表された新たな金融行政方針にある「日本型金融排除」への対応が求められている。信用保証・担保依存の見直し、企業の経営改善への支援を重視する「金融仲介機能のベンチマーク」が呼びかけられ、従来のメインバンク制とは異なる企業と金融機関との関係性が生じる可能性もある。メインバンクに求められる役割は、さらに高度化・多様化することが考えられ、今後もその動向に注視していく必要がある。

## 【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 京都支店 担当：渡辺雄大

TEL (075) 223-5111 FAX (075) 223-5200

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。